

## 卓 話

## 『これからどうしていくか』

岡田 一二三



前回、苅谷会員のお話では、30年の歴史で一番活力があったのは10期目この年、長良川RCより後藤氏がガバナーに選任され、北クラブに地区大会のホストを依頼された、私が経験した地区大会の中で最高の地区大会でした、うちのクラブ会員の能力と努力は賞賛の的でした。

又、岐阜北ロータリーカップバレーボール大会の後援をはじめ、インターアクトクラブの設立この頃が活力がピークかなと思っています。

最近では、例会の雰囲気も変わってきて良い方向へ向かってきていると思います。ただ新しい活力を生み出すには増強をしっかりとやっていくことが大事だと思います。

会員増強会議（原尾幹事）補正予算が承認されましたが、現在の会員数では大変運営が難しい、運営するための役職についても4年目で会計をすることになる状況であり、会長、副会長、幹事職も2回目を行う会員も近いうちに出てくる可能性がある、様々な検討を早急にする必要がある、やはり会員増強の必要性と危機感をお互いに共有し、共同で勧誘していかなければならない。

I. G. M（早川会員）報告の中で若い人と年配の人たちとの交流が出来ない。オーストラリアで参加したとき会長挨拶だけで後はフリートークでとても活気があった、月1回ぐらい設けてはどうか。

I. G. M（前田会員）全員で増強の手法を考える必要がある。職業分類によってターゲットとなる職種を選び、会員の人脈、電話帳で選び声をかける、会員が一番ロータリーの良さを知ってるから、親戚、身内に声をかける、再度ロータリーの素晴らしさ、楽しさを再確認する必要性。

具体的に何をどうすれば「これからどうしていくか」10期目の活気を取り戻せるか、責任を自分達にもってこなくてはいけない、自分たちが悪いと言うことに気が付いて初めてそこを変えれば良くなる、ごく当たり前の事が認識出来ていない、何が原因かと言えば実は仲間は仲間じゃないんですね仲間が仲間ということは同じ事で喜べる、同じことで悲しめる、これが原点じゃないといけません、人のせいにしておけば気が楽だ、うっかり自分が大丈夫だと言ってしまっただけでその通りにならなかつたら責任追及されるのは自分だから余計な事言わない方が言い、このような気持ち、一種の負け犬根性かも知れませんが、そういう気持ちが何となく宿ってしまう、これが原因なんですね。

一つだけ許される嘘があるとすれば、目標は必ず行く何となればとゆうことで、そこから話を進めていく機納的思考を持つべきだと、目標を先に決めてその為に何をすべきか、目標達成が大切な事とすれば、その事によって今まで正しいと思っていた事が、幾つか捨てなければいけない、正しい事が幾つか捨てる勇気を持てる、これが出発点だと思ってま

す、そして、もう一つ大切な事は目標を共有する事は、同じ思いをする、同じ言葉を使っていく、こういった事が仲間の一つの原則だとこんなふうに思ってます。

#### 【具体例】

- 1 : これ以上減ったらクラブ運営が出来ない理屈はともかく増強するしかない。今、若い方が入ってこられて大変有意義に思う難しい事はいわずに。
- 2 : 夜間例会で親睦を図る。
- 3 : 焼き鳥ミーティング。夜の飲み会を増やす。
- 4 : 通常例会月1回位ワァワァ騒ぐ会に。趣味の会を作り会員はどこかに入るように。
- 5 : 時代が違うから10期に戻す手法で活気を出すのは難しい、予算不足の為の増強なのか、それだけではない。
- 6 : 委員会の数、これ以上減らす方法ないか、新たにさすがロータリを作ろう、最初は4人からスタート30名出来ない訳はない。

今後北RCをどうして行くかという大きな議題ですが、我々のテーブルでは、まずは「会員増強」をやっていかなければ、何も始まらないという事で、話が始まりました。

- 1 今、この時間帯に出席できる人をリストアップして勧誘してはどうか。  
(現状40代、50代の人で仕事を持っている人は、なかなか時間が取れない)
- 2 手帳の職業分類を見ると、空いている職業がずいぶんある。  
空いている職業の人をリストアップして勧誘してはどうか。
- 3 会員の身の回りの人をあたってみる。
- 4 以前多かった業種・・・建設業、設計士、開業医などをあたってはどうか。  
(昔と比べて、自由な時間がなかなか取れない、収入面、目を通さなければいけない書類が今はものすごく多い、お医者さんなどは、本人がいないと病院が回っていかない)

グループディスカッションのまとめとして私的要素が入ったことお許してください。